

令和3年度「ベストプラクティス企業」への職場訪問

～ 京都産業貨物株式会社の取組みについて ～

過重労働解消キャンペーンの一環として、令和3年12月1日、近畿では初めてとなる京都労働局長（局長：金刺義行）と京都運輸支局長（支局長：藤原幸嗣）の両機関トップが合同で、長時間労働の削減のため、取引環境の改善に積極的に取り組む企業を「ベストプラクティス企業」として職場を訪問しました。

ベストプラクティス企業の職場訪問とは、都道府県労働局長が長時間労働削減に向けた積極的な取組みを行っている企業を訪問し、取組事例を紹介することで、地域全体の過重労働解消等に向けた気運の醸成を図ることを目的としています。

では、今回訪問した「京都産業貨物株式会社」における取組みをご紹介します。



企業概要

- 企業名 京都産業貨物株式会社
- 所在地 京都府八幡市川口高原34番地9
- 設立年月 昭和38年（1963年）3月
- 代表者 代表取締役 金井 勇人
- 従業員数 86名（令和3年11月現在）
- 事業内容 一般貨物自動車運送事業



京都産業貨物 株式会社
Kyoto Industry Cargo

京都産業貨物株式会社の取組みについて

取組みの契機

ドライバーの採用面接で、以前は給料のことばかり質問されていたのが、最近は「年間の休日は何日ですか」「有給休暇は取れますか」と言った質問が多くなって来たことに「働き方」の意識変化を感じていた。

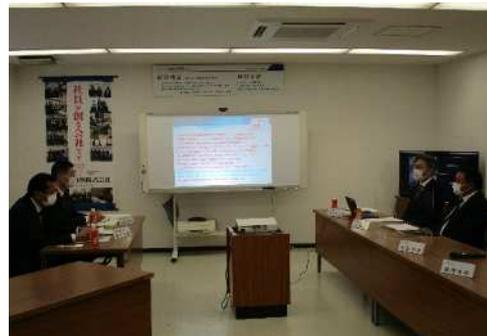
ドライバー不足は深刻で、常に求人は出しているものの人が集まらず、結果として既存のドライバーの長時間労働という悪循環が続いていた。

そこに、国の施策として「働き方改革」が打ち出されたこともあり、長時間労働の解消を決意。

具体的な取組内容

完全週休2日制の導入

- ・長時間労働の現状を全社員に認識してもらうことから開始。
- ・労働時間を短縮していくためには、労働生産性を高めることが必要であることを説明。
特に、ベテラン・ドライバーの「労働時間が増えることで給料が増える」的な考え方を改めてもらうための啓発活動を社長自らが実施。
- ・労働生産性を高めるためには、無駄な待ち時間を減らす、パレット化して積み込み・荷卸しにかかる荷役時間を短くする、長距離輸送では高速道路を有効に活用する等の対策が必要となることから、荷主に対して作業手順の調整など積極的な協力を依頼し承諾を得る。
- ・就業規則を変更し、完全週休2日制を導入。



【社長（右）から説明を受ける局長・支局長（左）】

京都産業貨物株式会社の取組みについて

有給休暇の取得促進

- ・ 休暇を取得促進する理由は、社内・社外の競争力を高める活動のためであることを説明。
- ・ 誰かが休んでも誰かがやってくれる体制を構築。即ち「仕事の属人化」の解消が、お客様へのサービスの安定につながることを説明。
- ・ 時間を大切に人が増えており、休暇を利用して、両親の介護や学校や地域行事への参加などの促進が進み、従業員の満足度を上げることで離職率の低下が図られた。
- ・ その結果、昨年（2022年）の年5日（法定）の取得率は100%、有給休暇全体でも64%を実現した。

【IT機器による労務管理の一例（帳票管理）】

IT機器を活用した労務管理の実践

- ・ 貨物自動車運送事業は、法令で定められた点呼記録や、運行記録、運行指示書など様々な書類を作成することが義務付けられており、その作成に時間を割かれているのが現状。
- ・ また、ドライバーは基本的に社外に出っぱなしで従業員全員がそろうことは無く、運行状況や天候も逐次変化していく。
- ・ これら書類の作成や管理、情報の共有化・効率化を図るため、デジタルタコメーターなどIT機器を可能な限り導入し、いわゆる輸送でない間接部門の時間短縮に取り組んでいる。



【IT機器の説明する社長(左)と物流部長(右)】

京都産業貨物株式会社の若手ドライバーとの意見交換

【若手ドライバーと意見交換を行う局長・支局長】



この会社で一番良いと思うところはどこですか？

運行時間にゆとりがあるので、焦らずに仕事ができることです。

どうしてドライバーになろうと思ったのですか？

運転が好きなので女性でもドライバーとして活躍したいと思いました。



皆さんありがとうございました。

創業者の会長を挟んで、対談者で記念撮影

